

## 主要ニュース

### 第2期生31名の新たな挑戦が始まる



2014年度は、2期生として31名の塾生を迎えて8月30日に入塾式を行いました。2期生の主なプロフィールは、仙台本校で19名、花巻と会津若松のサテライトでそれぞれ6名、そして女性が4名です。また、年齢層は30歳代が15名で最も多く、続いて40歳代10名、20歳代3名、50歳代2名、60歳代1名となり、取締役以上の経営者が11名で後継者17名、管理者3名です。

塾生の事業内容もバラエティに富んでおり、実践ゼミなどでは異業種の事業内容からイノベーションのヒントや刺激を得ることも少なくないことから、例年にも増して活発な議論がなされています。既に塾生同士で共同事業や相互支援の相談などが授業の前後で散発的に行われており、10月18日の実践ゼミ終了後に懇親会も開催されました。こうした活動を拝見していると、RIPSは共通言語としての事業イノベーションの考え方を提供する場であると同時に、こうした志の高い事業家との出会いの場を提供することに大きな意味があるのではないかと改めて思います。

このような出会いの場は、信頼を基盤として繋がってこそ有意義なネットワークに発展する可能性を秘めています。一般に、信頼関係が構築されるためには、裏切らないという「意図」と、こいつは凄いという「能力」に関する相互理解による信頼が不可欠です。RIPSの活動を通して塾生および卒業生との相互理解が深まり、地域企業の事業イノベーション創出の場となる挑戦的な事業家のネットワークがまた新たに進化し始めました。

RIPS塾長・藤本雅彦

### プルデンシャル財団が事業化資金1億円支援



東北大学と米国に本拠地をおくプルデンシャル財団は6月に記者会見を開き、財団がRIPS卒業生に対する事業化資金として2014年度から3年間約1億円(年間約3000万円)を支援すると発表しました。発表に併せて2014年度の「プルデンシャル財団助成事業」の採択者3名に対して目録伝達式が行われました。プルデンシャル財団のラタ・レディー理事長は、「被災地の経済復興のために将来のビジネスリーダーを育てようという東北大学の取り組みに協力できてとても光栄です」と述べ、RIPSへの期待の大きさを表しました。2014年度の採択者は一次審査(書類審査)、二次審査(外部審査委員会、審査委員長:守本憲弘東北経済産業局長)による面接審査を経て下記の3名が選定され、合計2800万円の助成金が交付されました。なお、2015年度の本助成金の募集要項は来年3月頃発表する予定です。 RIRC地域連携室長・富澤辰治

採択者名	会社名	事業名	助成金額
伊勢ちかこ	イリナ・ミュージカル	ミュージカル体験によるパーソナルグローアップ事業～東北発、フロードウェイ・エンターテインメント・イノベーション～	1,000万円
齋藤栄太	齋藤織物株	次世代シルク系の開発による高機能シルク織物の開発と国内外への販路開拓	1,000万円
箱崎陽介	ハコシヨウ食品工業株	日本伝統の「だし」生成技術の活用による食のあたらしい価値創造	800万円

### 実践ゼミコーチが全塾生の会社を訪問



2014年度より、実践ゼミ・コーチ陣が全塾生の会社を訪問することを始めました。訪問の目的は、第一に、塾生自身と所属会社についてより深く理解することです。そのため、訪問時は、日常的な業務や事業環境についての視察、ヒアリング、意見交換を塾生だけでなく上司にも同席して頂いて実施しています。また、訪問後は、専門分野の異なるコーチ間の意見交換を通じてそれぞれの塾生に対する支援方針の検討を行っています。第二に、塾生が少ない心的負担でRIPSでの学習に集中できるようにすることです。そのためには、会社の上司や同僚の方にRIPSでやっていることを理解して頂いて、塾生を笑顔で送り出して頂くことが必要です。第三に、皆さんとコーチ間の信頼関係を構築することです。実践ゼミではクラス担任を設けず、コーチ全員で塾生一人ひとりを指導するという方法をとっていますので、コーチと塾生間のコミュニケーション機会を、より多く持つ必要があります。企業訪問は、そのための機会の一つになります。

RIPS実践ゼミ統括・板垣良直

### 塾生・卒業生の現在



**2期生 升遷 マスヤ・スチール工業(株)**  
仙台で金属製建具工事業を営んでいます。私がRIPSに入塾して3か月で何を学んだかをお伝えします。それは今までの人生で出会えなかった一生付き合える仲間です。業種や規模は違いますが自社の事業について真剣に考えてくれる仲間、既存事業についてもアドバイスをくれる仲間、いっしょにお酒を飲みながらあるべき姿の世の中を真剣に語ってくれる仲間、授業中に真剣に議論できる仲間。そんな仲間と出会えたことが入塾して得たかけがえのないものです。



**1期生 阿部 章 (有)パルコ**  
卒業して早8ヶ月となります。現在、イノベーション事業をひとつひとつ改善しながら進めています。特に感じていることは、RIPSで開発したイノベーション事業の実現に向けて積極的に取り組むことで新しい市場が生まれつつあること以外に、実は既存事業が影響を受けて伸びてきていることです。新事業プランともあわせて、前年比売上180%近く増になっています。RIPSで学んだ経験デザインを軸としたイノベーション事業は良い意味での予想外な効果もあると強く感じています。

### 会津若松・花巻・仙台でRIPS公開講座



今年9月30日に会津若松サテライトにおいて「地域イノベーションプロデューサー塾公開講座・体験学習」を開催しました。この公開講座は、RIPSに対する理解をより深めて頂き、入塾意欲を高めることを目的に企画したものです。当日は定員を超える11名が参加し、「デザイン思考Ⅲ」の講義を受講しました。参加者は、講師の権奇哲先生の熱い語り口、新鮮で興味深い内容に次第に引き込まれ、途中退席もなく全員最後まで熱心に受講していました。この体験学習の公開講座は、今年度中に全4回実施する計画で、12月以降も仙台本校と花巻サテライトにおいて実施されます。

富澤辰治

会津若松	2014. 9.30(火) 18:30	経験デザインのための実践的方法／権奇哲
仙台本校	2014.12.13(土) 10:00	ブランド戦略と実行／井上岳一
	2015. 1.10(土) 10:00	中小企業の海外進出／高橋宏彰
花巻	2015. 1.13(火) 18:30	経営者のリーダーシップと右腕の育成／藤本雅彦

### OB会の2研究会が始動し相互研鑽



2014年5月31日に、RIPS OB会設立総会を開催し、2012年度と2013年度にRIPSを卒業した46名で「RIPS OB会」を発足させました。これはRIPS卒業生が会員相互の研鑽と連携により、各々が実施する事業の推進・発展を目指すとともに、RIPS並びに東北地域産業の発展・活性化に寄与することを目的としています。当会顧問には、藤本雅彦塾長、大滝精一教授、権奇哲教授にご就任頂きました。

今年度は、「経験デザイン研究会(EDS)」にて経験デザインの視点と原的思考を学び、新しい経験の原型を提案するという役割について考えています。また、「事業実践研究会(BPS)」は、人とのつながりを広げるためのツールとしての研究会であり、会員企業の事業を題材に事業活動に必要な情報・資源・支援へのアクセスと見えないアイデアを広く得る場です。今後各種活動を通じてRIPS卒業生として相互研鑽を積んで参りたいと思います。

OB会専務理事・福田大輔